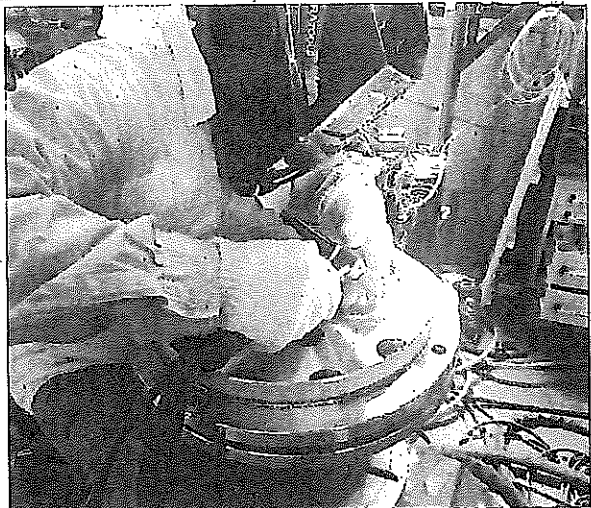


# 半導体製造装置 自社で

## 本社工場を移転拡充

### サンヨー機工

半導体製造装置部品を手掛けるサンヨー機工(横浜市)は、自社での装置製造に参入する。約4億円を投じ、クリーンルームも設置するなどして本社工場を移転拡充する。完成品である装置自体も取り扱えるようにして取引先の幅広いニーズに対応する。2028年4月期の売上高を18年4月期比2.5倍の10億円に拡大することを目指す。



サンヨー機工は半導体製造装置の配管や高圧容器などの部品を手がけている(写真上)。現在の本社工場は作業スペースの問題もあり部品製造にとどまっていた(同下)



同社は半導体製造装置まで一貫しておこなえるに使う配管や高圧容器などの部品を幅広く手がけている。現在の工場は横浜市都筑区にあるが、同区内に新工場用の別の用地を確保した。新工場の敷地面積は現工場の2.6倍の608平方メートル、延べ床面積は同2.1倍の886平方メートルに広がる。設備では現工場で部品製造で使っている切削、溶接などの工作機械を移設する。完成品製造に必要な工作機械2台を増やすほか、3階建ての1階部分に組み立てができるクリーンルーム付きの作業場を設ける。装置製造

まで一貫しておこなえる体制を整える。

夏をめどに建設工事に入り、年内に竣工・稼働開始することを目指す。土地の取得や建設費用などを合わせた総投資額は4億円強という。現在の工場は閉鎖する。製造人員は現在の5人から15人に順次増やす。

自社製造する装置は試作品の製造などに用いる比較的小規模なものとする。スーパーコンピューターやサーバーといった情報通信機器向け半導体の製造装置などを手掛ける計画だ。基本的には取引先企業それぞれの個別の要望に合わせてオーダーメイドする。

現工場では作業スペースの問題もあり、部品製造にとどまっていた。装置は部品単体で売るよりも高採算のほか、取引先の幅広いニーズに応えられるとして業容拡大につながることをみる。新工場ではまずは部品製造を主軸

とするが、徐々に装置製造の比重を増やしていく。国際半導体製造装置材料協会(SEMI)によると、19年の半導体装置

の世界販売額は前年比4%減の見通し。スマートフォン需要の拡大が一服したことや、米中貿易摩擦などが背景だ。

ただ、小泉宏社長は「中期では人工知能(AI)やあらゆるモノがインターネットにつながるIoTが普及するにつれて、半導体需要は拡大していく」とみている。